

作文の部<講評>

今年度は、作文の部で小学校から104編、中学校から11編、合計115編の応募があった。昨年度に比べ70編も少ない応募数であったが、応募してくれた子ども達をはじめご指導頂いた関係各位に心より感謝したい。

厳正に審査した結果、小学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選7名が受賞した。また中学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選3名が受賞した。

この「児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール」は、第一に「歴史の実相を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てること」、第二に「作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する」という2つの趣旨で実施されている。

戦後74年の歳月が経った今、戦争体験者が高齢になり、「語り部」の方々の減少にともない歴史の実相を伝承することが厳しい状況にある。だからこそ、本コンクールが、「平和行政推進事業」の一環として企画される意義は極めて大きく、作文の内容にもその趣旨が生かされ、児童・生徒の平和を希求する思いが伝わる作品が多かった。さらに、これからの社会を生きていく上でとても大切な「表現力」の育成に資する貴重な機会となったことも高く評価したい。

作文審査については、表記の正しさ、文章の流れ、要旨の明確さの三点を審査基準に学年の発達段階等も考慮しつつ、慎重かつ丁寧に審査し、下記のとおり講評する。

1. 小学校の部

- (1) 小学校6学年児童の作文は、ほとんどが平和学習で学んだことが中心であり、シムクガマ・チビチリガマ・平和の礎・平和資料館の見学や体験等を書いている。
(ほとんど似た作文になっている)
- (2) 読谷小学校の5年3組の児童の作文は、国語の授業で「平和」とは何か？漢字の意味調べから入り、それぞれの児童が自分で考える平和について、考えを述べており、いろいろな視点があっっておもしろい。
(個性的な作文が多く漢字の間違いも少なく、教師の指導の成果がうかがえる)
- (3) 全体的に誤字・脱字・原稿用紙の正しい使い方等に課題がみられる。今一度、学校現場への協力依頼が必要と考える。

2. 中学校の部

- (1) 作文の出品数が少なく感じられる。(読中8作品・古中3作品 計11作品)
- (2) 作品数は少ないが、「シムクガマとチビチリガマ」「平成から令和」「集団自決」「トリステーション内にある墓」「新聞を読んだ感想」等、いろいろな視点から、平和について深く考えている。
- (3) 小学校と同様、全体的に誤字・脱字・原稿用紙の正しい使い方等に課題がみられる。今一度、学校現場への協力依頼が必要と考える。

※ 特に、原稿用紙の正しい使い方、小中学校とも漢数字(一・二・三)で書くべきところを算用数字(1・2・3)で、年代や人数等を表記する間違いが多く見られたところは、気になるところである。